

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵本

<テーマ設定理由>

〇キッズタウンむかいはら保育園にはクラスの本棚の他に絵本コーナーが3ヶ所があり、特に2階の絵本コーナー（30㎡）には、子どもが自由に好きな絵本を選べる環境を作り『絵本』に力を入れている。

『絵本』を通して興味関心を広げたり、調べたいという探求心、物語からの表現力や情緒など感情について、文字や言葉の獲得など成長には欠かせないツールのため、子ども達の絵本好きをより深めたり、いつでも読みたい絵本コーナーの作製を行う。

〇板橋区が『絵本のまちいたばし』として絵本に力を入れており、毎月図書館の読み聞かせや区からの各家庭に赤ちゃん絵本の配布など子ども達は絵本にふれる機会が多く保育園でも開設当初から絵本に力を入れ大切にしてきた。改めて子ども達、職員共に絵本について考える機会にする。

<内容>

〇絵本コーナーの環境を子ども達中心に新しくデザインし、より絵本を好きになったり、新しい空間の中でわくわくな発見につなげ、発見を次に生かし良いものに変化を続ける。

〇絵本について子ども達一人ひとりやみんなで色々なアプローチで考えたり、共有したり、表現したりしていく中で絵本について深く探求する機会をつくり絵本を通しての心身の成長につなげたり、絵本を読み解き表現や製作等に生かしていく

2. 活動スケジュール

① 絵本をみんなに好きになってもらう・ずっと居たくなる絵本コーナーの空間づくり（7、8、9月）

- ・職員で絵本係を設定し子ども達に読んでほしい絵本の選定、絵考える。
- ・常設絵本交換ポスト『どうぞの絵本』を実施
- ・本を読める場所、子どもの楽しい空間づくりとして玄関の絵本コーナーと2F 絵本コーナーの変更

② 幼児3クラス 好きな絵本や読みたい絵本について話し合い（10月）

- ・自分の好きな絵本を相手に発表する。
- ・保育園に欲しい絵本をみんなで意見を出し合う。
- ・他の友だちに薦めたい本を紹介する。

③ 夢の絵本コーナーの話し合い（11月）

- ・どんな絵本コーナーがいいか、どんなものを置きたいかなど意見を出し合う。

④ 好きな絵本をみんなに知らせよう（12月）

- ・自分の好きな絵本の絵を描いた表現、張り出す。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

活動の中で絵本コーナーを使用する時間をより多くしたり、様々な絵本を読み聞かせるなど絵本に触れる機会を多く持つ。クラスごとに子ども達が集中できる、発言できる環境を整えてもらい話し合いを行う。

4. 活動の実践

(活動内容)

幼児3クラスでクラスごとに下記のテーマについて話し合いをしたり、順番に発表しあい、自分の知らない絵本を知ったり、友だちの好きな絵本を知ることで関係を深めてく。(3クラス→10月18日)

- 自分の好きな絵本を相手に発表する。
- 保育園に欲しい絵本をみんなで意見を出し合う。
- 他の友だちに進めたい本を紹介する。(5歳児)

○活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育士とのやり取り

☆3歳児 職員の周りに園児が集まり話し合いを行う。

最近読んだ絵本を中心に1人の園児が言った絵本のシリーズを伝えたり、TVやキャラクター関係の好きな絵本をいう子が多かった。

「◇◇絵本が好き」

「僕もその絵本知ってる」「私それ家にあるよ」「読んだことある」など日等の発表に対して他の子どもたちの反応が見られた。

☆4歳児 サークルタイムを取り入れ、お互いの顔を見て話し合いを行う。

3歳と同じように最近読んだ絵本を上げる子が多いが図鑑やウォーリーなど探す系の絵本や迷路などを好む子が多くいた。

「□□の本が好きです」と話をすると

「僕は■■が好き」「私は◇◇を読んだことある」と発表した園児の絵本から関連するものや連想できるものを伝える姿があった。

3、4歳児は好きな絵本と保育園に欲しい絵本はほぼ一緒の傾向があり、職員も検討に出ていた図鑑や「パンどろぼう」「だいびんち図鑑」「100階建てシリーズ」など最近新刊された絵本が出てきた

☆5歳児 サークルタイムの時間を使って、お互いの意見交換を行い、聞くことも大切に進める。

「パンどろぼうが好き」「100かいだて全部持ってる」など新刊系を発表する園児

「じゅげむ」など落語系の昔話を発表する子

「毒の図鑑」「自然図鑑」など図鑑が好きだと発表する子

「よるくま」「バーバーパパ」など物語の絵本など

今まで読んできたり、自分が好きな絵本を紹介していた。

保育園でほしい絵本では

「ブレイクダンスの先生になりたいからダンスの絵本」「お医者さんになるための体の絵本」「モノづくり絵本」

「おしごと絵本」「カラー、色が分かる絵本」「飛行機の絵本」など将来に関する絵本、職業等の絵本を見たい子が多くいたり、「自分の街の絵本を読みたい」「むかいはらの絵本がみたい」などの身近な事に興味を持つやり取りがあった。

友だちの紹介した絵本を紹介する場面では

「かぜをひいちゃったサンタさん」

→「はなしとしておもしろいし、風邪をひいちゃったときにつらいことがわかるから」

「じゅげむ」

→「色々な面白い言葉が出てくるから」

「うちゅう」しぜんシリーズ

→「勉強になる、将来宇宙飛行士になるからススメたい」

などの発表があった。

○写真

☆3歳児（ばら組）



手を上げてさされた園児から好きな絵本を発表する。

発表を聞きながらさされてなくても発表に対して自分の考えを伝えている園児も多く見られた。

☆4歳児（ゆり組）



サークルタイムを保育室ではなくホールに移動して一人ずつ好きな絵本を考えながら発表を行う。

☆5歳児



サークルタイムを取り入れ、職員が中心となりながらお互いの顔を見合い好きな絵本を発表しあう。一人ずつ立って発表し、周りの子はよく話を聞いている。そこから質問や意見交換する様子も見られた。



みんなに紹介したい絵本では「絵本持ってくる」「表紙の絵を見せたい」と言って絵本コーナーの本棚まで取りいく様子があった。

○振り返り 気づき

- ・各クラス年齢に合わせての集まり方や発表の方法をとって、発表するのがはずかしい、緊張する子に対してもできる方法をとったり、援助しながら進めていき言い終わると満足した表情が見られた。
- ・年齢が上がるにつれ保育園、家庭で多くの絵本に触れてきたので絵本の事を考えたり、絵本に対して色々なイメージなどを持つことができていた。
- ・絵本コーナーで絵本を見ている子どもたちから「絵本がかさなって見にくいな」「表紙はが見たいな」という声があり、絵本は多いが本棚が足りない現状が見えてきた。
- ・壊れている本を見つけると「直してあげようか」という声があったり、破れている本があるとテープを持って来てきてくれるなど絵本を大切にする姿が見られた。